

7 ベトナム

Vietnam

基礎データ	人口	9,819万人(2022年)	日本との関係	日系企業数	2,373社(2022年)
	名目GDP	4,088億米ドル(2022年)		在留邦人数	18,949人(2023年)
	1人当たり名目GDP	4,164米ドル(2022年)		日本食レストラン数	1,620店(2023年)
	実質GDP成長率	8.0%(2022年)			

1 市場の特性と消費の動向

コメの生産・消費・輸出大国

A 市場の特性

ベトナムは世界有数のコメ生産・輸出国であり、水稻生産量は精米ベースで2,700万トンと推定されます。長粒種が主流ですが、短粒種も少量ながら生産されています。コメの生産国としてだけでなく、市場としても多くの可能性を秘めています。人口は約1億人を抱え、年間のコメ消費量は約2,120万トンとなります。人口は2050年には1億1,000万人に達すると予測されており、コメの消費量も増えると見込まれています。

注目すべきは、ベトナムは国内消費のためにコメを輸入していることであり、現在では長粒種が大半ですが、日本からの輸入も増加傾向にあります。

B 消費の動向

コメはベトナム人の主食であり、米粉麺、米餅、甘いスープお粥など、あらゆる料理に使われています。近年、経済発展による所得の増加と、コロナによる自炊の広がりにより、米粉麺、春雨、ライスパンケーキ、インスタント粥、餅粉など、コメを原料とする製品の需要が増加しており、ベトナムの小売店、伝統的な市場、スーパーマーケットで強い存在感を示しています。

また、コメについても現地の香り米、特別栽培米や輸入米の消費が増えており、ベトナムでは中粒種や長粒種のしっかりとしめてべたつかない食感が好まれることから、これらが一般的に使用されています。一方、日本産米は高品質と高栄養価と認識されており、ハノイやホーチミンなどの大都市のベトナム人に人気が高まっています。

表-1 コメの生産・消費・輸出入の状況

MY(7月～翌6月)	2021	2022	2023
生産量(千トン)	26,670	26,940	27,000
消費量(千トン)	21,400	21,400	21,200
輸出量(千トン)	7,054	8,400	7,600
輸入量(千トン)	1,700	1,800	1,400

(出典)USDA(精米ベース) 2024年1月30日時点

表-2 日本からのコメの輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	167	219	296
輸出単価(円/kg)	290	249	249

表-3 日本からの米菓の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	93	95	83
輸出単価(円/kg)	2,255	2,283	2,515

表-4 日本からの包装米飯等の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	47	49	23
輸出単価(円/kg)	775	876	875

(出典)財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く) 2024年1月30日時点

コメの主な輸入先国・地域

カンボジア、インド、中国、ラオス、タイ、ミャンマー、日本

2

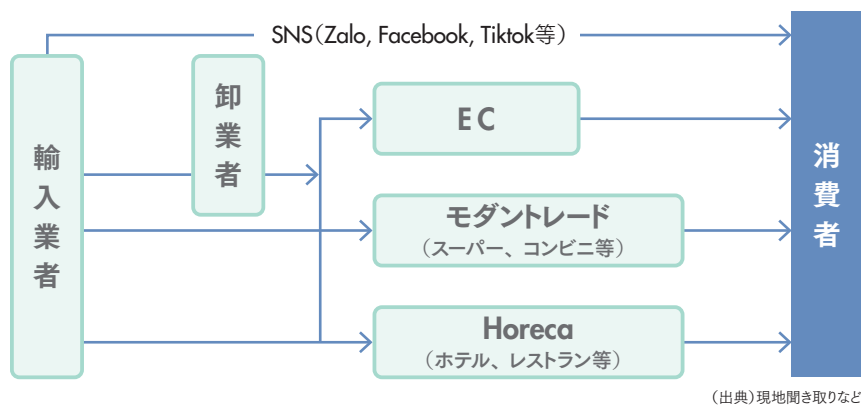
流通チャネルと取引慣行

日本からの商品は近代的な流通チャネルが中心

A 日本産米の流通経路

日本産コメ・コメ加工品は、主にモダントレードと呼ばれる近代的な流通チャネル（コンビニエンスストア、スーパーマーケット）、Horeca（ホレカ：Hotel/Restaurant/Café）、ECで販売されています。輸入業者は、卸売業者や小売業者を兼ねることもあります。また、近年では、輸入業者がSNSを通じて消費者に直接販売するECが大きく発展しています。

なお、インタビューによると、各段階におけるそれぞれのマージン（利益幅）は輸入業者約5～15%、卸業者約10～20%、小売業者約40～50%となっています。



B 加工食品の流通経路

ベトナムでは、日本食品を専門に扱う小売店が輸入卸売業や飲食店を兼ねていることが多いです。加工食品を輸入する際は商品登録などの手続が必要となる他、ベトナム国内で包装されていない食品（コメの計り売りなど）を製造・販売する企業は、食品安全要件充足施設証明書を取得する必要があります。なお、近年では直接ECで販売する加工・流通業者が増えています。

C 取引慣行

ベトナムに輸入される商品は、品質基準を満たしている旨を自ら宣言し、当局に提出する必要があります。ベトナムで販売するコメ・米粉の衛生規制は、「食品安全法」で定められています。一般に食品の安全管理は保健省が担っていますが、コメの安全管理については農業農村開発省が、米粉の食品安全管理については商工省が担っています。輸入食品の安全検査については、食品安全検査の国際条約締結や輸入検査実績などにより簡易検査、通常検査、厳重な検査のいずれかが適用されることになっています。

3

関税割当枠と関税

特別優遇関税率が適用可能

関税

ベトナムの関税には、「最恵国（MFN）税率」、「日本・ASEAN包括的経済連携協定（AJCEP）税率」、「日本・ベトナム経済連携協定（VJEP）税率」、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）税率」、「地域的な包括的経

「RCEP 税率」のいずれかが適用されます。AJCEP・VJEPA・CPTPP・RCEPの適用を受けるためには、原産地基準を満たす必要があります。なお、各協定の関税引下げスケジュールを含めた税率は以下のとおりです。

【精米(HSコード：1006.30.30)】

- MFN(最恵国) 税率.....40%
- CPTPP税率.....免除
- AJCEP税率.....免除
- VJEPA税率
2023年4月1日～ 2024年3月31日.....2.5%
2024年4月1日以降.....免除
- RCEP税率
2023年1月1日～ 2023年12月31日.....40%
(以降2040年12月31日まで40%、2041年1月1日から20%)

【米菓の輸入関税率(HSコード：1905.90.80)】

- MFN(最恵国) 税率.....20%
- CPTPP税率.....免除
- AJCEP税率.....免除
- VJEPA税率
2023年4月1日～ 2024年3月31日.....2.5%
2024年4月1日以降.....免除
- RCEP税率
2023年1月1日～ 2023年12月31日.....16%
(毎年4月1日に2%ずつ減税、2031年度から免税)

【包装米飯の輸入関税率(HSコード：1904.90.10)】

- MFN(最恵国) 税率.....35%
- CPTPP税率.....免除
- AJCEP税率.....免除
- VJEPA税率.....免除
- RCEP税率.....免除

4 検疫制度と食品規制

植物検疫、輸入通関手続き、食品安全検査が必要

A 検疫制度

精米・玄米・米粉いずれもベトナムに輸出するには、ベトナムの植物検疫当局に植物検疫証明書を提出する必要があります。また、食品を輸入・販売する場合は、次の手続が必要となります。

a. 食品安全要件充足施設証明書の取得

包装されていない食品を製造・販売する企業は、食品安全要件充足施設証明書を取得する必要があります。なお、米菓などの包装された食品について、同証明書は不要です。

b. 商品公表または商品登録

加工包装済みの食品を輸入する事業者は、商品自己公表手続を行う必要があります。商品自己公表とは、所定の書式

の商品自己公表書及び商品テスト結果票を、マスメディアまたは自社のウェブサイトもしくは所在地において公表し、かつ、当局へ送付することにより行われる手続です。また、健康食品などに該当する菓子を輸入する企業は、保健省または保健局において商品公表書登録手続を行う必要があります。

B 食品規制

■ 製品表示の内容

ラベル表示には、ベトナム語による表記が義務付けられています。また、遺伝子組換え食品や機能性食品に関する表示規則等も別途あります。

【コメの表示義務項目】

- a. 商品名
- b. 内容量(正味重量)
- c. 製造年月日
- d. 賞味期限
- e. 商品に責任を持つ事業者(輸入業者など)の名称と住所
- f. 原産国：パッケージングが産地と異なる国で行われた場合は、パッケージ国を併記
- g. 食品安全に関する勧告と警告

■ 残留農薬基準・重金属及び汚染物質

コメ・米粉は残留農薬規制の対象となります。ベトナムでは使用される農薬についてポジティブリスト制を採用しており「食品に含まれる農薬の最大許容量を規定する保健省通達50/2016/TT-BYT」において、農薬と食品の種類ごとにADI値(日常許容摂取値)およびMRL値(最大残留許容値)が定められています。法令に記載されていない農薬の残留は認められていません。

また、コメ・米粉における重金属のMRL値は、カドミウム0.4 mg/kg、鉛 0.2mg/kgと定められています。

■ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連した輸入規制

2013年9月1日、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う日本産食品の輸入規制は撤廃されました。

5 小売店の店頭価格

日本産米の価格はベトナム産米の4倍以上

A コメの販売価格

ベトナムで主に消費されるコメはインディカ米ですが、ジャポニカ米も生産されています。ジャポニカ米も、現在では市場で広く販売されており、スーパーマーケットだけでなくオンラインでも購入が可能です。ジャポニカ米でも日本産とベトナム産では価格差が大きく、日本産の価格は2倍以上となっています。価格の高さもあってか、日本産米は通常2kg単位と少量で販売されています。

表-5 コメの販売価格(調査月：2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ドン)	販売単位での 円換算*
Japonica Koshihikari	ベトナム	2.5kg	100,000	592
Sushi Lotus Rice	ベトナム	5kg	160,000	947
Premium Japanese rice Taiyo Vinh Hiên	ベトナム	5 kg	140,000	828
新潟コシヒカリ	日本	2 kg	240,000	1,420
岩手ひとめぼれ	日本	2 kg	230,000	1,361
北海道コメピリカ	日本	2 kg	330,000	1,953

B 包装米飯の販売価格

インスタントラーメンやインスタント春雨等の他のコメ加工品に比べ、包装米飯は新しく、ベトナムではまだ馴染みがないようです。現在では、日本産と韓国産の包装米飯が販売されており、白米の他に玄米等もあります。韓国産は日本産よりやや安いですが、価格差はそれほど大きくありません。

表-6 包装米飯の販売価格(調査月:2023年8月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ドン)	販売単位での 円換算*
Ottogi cooked rice	韓国	210g	32,000	189
CJ Cooked White Rice 200g	韓国	210g	73,000	432
Heibahn cooked rice	韓国	540g	73,000	432
サトウのご飯	日本	200g	40,000	237
新潟コシヒカリ	日本	540g	130,000	769

表-7 米菓の販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ドン)	販売単位での 円換算*
亀田せんべい	日本	100g	70,000	414
トップバリュースーフードせんべい	日本	47g	65,000	385
Orion An baked rice crackers	ベトナム	151g	17,000	101
Bin Sembei	タイ	150g	40,000	237
Dongwon rice crackers	韓国	500g	150,000	888
VETRUE rice crackers(salted egg cheese)	中国	300g	40,000	237
VETRUE rice crackers(salted egg cheese)	中国	300g	40,000	237

*1ドン=0.0059円換算

C 米菓の販売価格

米菓のサクサクとした食感多くのベトナム人に愛されており、全ての年齢層に受け入れられています。市場には様々なブランドが販売されており、ベトナム産の他に日本、タイ、中国、韓国産等があります。日本産はタイや韓国産よりも高い価格で販売されています。

6 インターネット販売の実態

ベトナムのEC市場は急拡大しています

ECはベトナムで急速に拡大しています。2018年の市場規模は80億米ドルでしたが、2022年には200億米ドルに達しており、過去5年で大きく拡大しています。ベトナムEC協会によれば、企業の65%がインターネットやSNS等で多様な販売活動を展開しています。

コロナ禍を機に生鮮食料品や食品などのオンラインでの購入が増えており、Shopee、Tiki、Lazada等のショッピングプラットフォームでは、コメ・コメ加工品も販売されています。また、FoodMap等の食料品専門のオンラインプラットフォームもあります。

近年の特徴として、これらのプラットフォームには外国の販売業者が参入しており、多くの消費者が海外の販売業者から商品を直接購入しています。それぞれのサイトにおいてECプラットフォームへの出店方法や関連マニュアルが掲載されています。なお、日本からベトナム国内に輸送する際は、関税、付加価値税(VAT)が課されます。その他の支払いルールやサービス料は各プラットフォームの規定に基づきます。

また、ベトナムではSNSを通じたマーケティングも重要であり、Facebook、zalo、tiktokなどのSNSにおいても広告及び販売活動が行われています。

主要ECサイト		URL
a. Lazada		https://www.lazada.vn/
b. Sendo		https://www.sendo.vn/
c. Shopee		https://shopee.vn/
d. Tikil		https://tiki.vn/
e. Foodmap.asia	(食料品専門)	https://foodmap.asia
f. Agata Japan	(日本食料品専門店)	https://vn.agatajapan.com

ベトナム人の所得は増加しており(2022年の1人当たりGDPは4,164米ドル)、安全性が高く、健康的で高品質な食品に対する需要も急増しています。それに伴い、日本からのコメ・コメ加工品に対するニーズも高まっていると言えます。ECプラットフォームはベトナムで力強く成長しており、特に若者はこうしたプラットフォームでの買い物を好む傾向にあります。

輸出拡大に向けては当面は都市部での販売拡大を優先し、高所得者層やベトナム在住の日本人、日本文化が好きな消費者を主要なターゲットとし、経済の発展に合わせてターゲットを拡大していくという姿勢が重要になります。